

令和6年度 学校自己評価

1	学校目標	
	学校教育目標	重点目標（中・長期的な目標）
1	豊かな教養と幅広い知識を養い、確かな技術と学力を育む。	1 人づくり 「環境」「技術」「キャリア」を柱とする実践的な教育をとおして、「創造力」「技術力」「人間力」を培い、多面的な資質と実践的な職業能力を備えた人づくりを推進する。
2	健やかな身体と豊かな情操を培う。	2 学校づくり 三学科が連携・協働し、互いに切磋琢磨し、知・徳・体のバランスのとれた教育をとおして、生徒一人ひとりが明るく楽しく安心して学べる学校づくりを推進する。
3	社会の発展に貢献できる創造力と実践力を培う。	3 地域づくり 生徒・保護者・地域との共感を深め、地域を支える人づくり・地域を共につくる学校づくりをとおして、持続可能な佐久平の未来創生につながる地域づくりに貢献する。
4	地域の環境を守り育てる心を養う。	
		今年度の重点目標
		1 校是を実現するためのグランドデザイン・3つの方針に基づいて、生徒一人ひとりの未来像（キャリア形成）を意識した教育課程の実現に取り組む。（キャリア教育・全体）
		2 探求的な学び・対話的な学び・ICTの活用に取り組むことで授業改善を図り、授業の魅力づくりと生徒一人ひとりが主体的に学力の向上と進路実現を目指すことを支援する。（学習指導・進路指導）
		3 生徒と教職員の健康と命を守り、いじめや暴力、非違行為のない、安全で安心して学べる学校づくりのため、明るい挨拶や規範意識の確立、職員全員による生徒の健康状態の見守りと施設衛生の保持等、お互いの人格をリスペクトする人間関係を築く力を育てる。（生きる力を育む生徒指導）
		4 地域連携・協働など地域に開かれた教育活動を積極的に実践・発信し、佐総高の信頼とイメージの向上に努める。（社会に開かれた教育課程）

評価A:目標通り B:ほぼ目標通り C:改善を要する	
総合評価	
B	
評価	成果と課題
B	生徒一人ひとりの進路や将来の目標を実現するための教育課程・キャリア教育について検討し、編成・見直しをすることができた。
B	「探究さくたいら」(総合的な探究の時間)の再構築を行い、より魅力的な授業として改善できた。また、ICT機器や学習ソフトを活用し、生徒個々の主体性の向上につながった。
B	安全、安心な学校づくりのため、事案の早期発見・早期解決を目指し、各所で情報共有を密に行い、チームとして協働して取り組むことができた。安全意識の抑揚を図るための校内研修を例年以上に実施できた。
A	地域、諸団体、小中学校、企業と数多くの教育活動を実施することができ、生徒は地域に学び、地域を知る、よい機会となった。その成果をメディアを通して広く発信できた。

2 教育活動				
対象	担当部署	評価項目	評価の観点	
学習指導	教育課程 学習指導委員会	①ICTを取り入れた授業の研究 ②学習評価の研究 ③「多様な学習ニーズに対応した柔軟で質の高い学び」の周知・研究	①ICTを取り入れた授業の研究ができたか。 ②観点別評価が全学年対象となった中での学習評価の研究ができたか。 ③文部科学省の通知「多様な学習ニーズに対応した柔軟で質の高い学び」の校内職員への周知をし、研究を始めることができたか。	
	農業科	農業科全体	実験実習を通して知識・技能の習得および学校間交流を通じた地域連携	・実験実習や体験を通して知識・技能を深めることが出来たか。 ・小学校、養護学校等の交流活動を通して学習の理解を深め、コミュニケーション能力を養うことができたか。
		食料マネジメント科	植物栽培・動物飼育管理から加工、販売までの知識と技能の習得	・野菜を中心とした栽培管理や加工販売の知識と技能の習得ができたか。 ・産業動物の飼育管理や乳肉製品の加工販売の知識と技能の習得ができたか。
		生物サービス科	植物資源・動物資源を利活用した動植物介在活動の実践	・植物の特性・栽培の知識・技術を習得し、園芸福祉・環境デザイン・フラワーアレンジ等の植物資源の活用が適切にできたか。 ・動物介在活動等のヒューマンサービス、動物との共存に対応できる知識と技術を活用した産業動物飼養管理や地域交流活動ができたか。
		食農クリエイト科	食の安全・安心教育の実践 地域資源の活用・地域連携を通じた学校PR	・農産物加工品の品質向上や衛生管理の徹底など、食の安全・安心に配慮することができたか。 ・地域食材を利用した6次産業化や地域との連携に取り組み、佐総高をアピールできたか。
	工業科	工業科全体	インターンシップを通じて地元企業・事業所との連携	就業体験する工業科2年生全員がこの体験により職業観・社会観の醸成を図る中で、就業先の特色を生かした将来に繋がる連携を深め、進めることができたか。
		機械システム科	体験に基づく、理解しやすい授業実践	・授業（実験・実習）で理解を深め、専門知識の定着を図ることができたか。 ・生徒が各種技能検定に積極的に取り組めたか。
		電気情報科	体験を通じた、わかる授業の実践	座学で学んだ知識を実習を通して定着する。 電気的な特性の理解と回路の結線法の理解、実習によるプログラミング言語の理解により、社会に役立つ知識と技術を習得することができたか。
	浅間キャンパス連携		共通科目や研究への取り組み	・学校設定教科「探究さくいだいら」は充実できたか。 ・課題研究などの連携は推進されたか。

評価	成果と課題
B	①生徒用タブレットが全学年同一機種が整備され、様々な学習場面においてICTを活用した授業を行うことができている。各担当の具体的な活用方法を、より多くの人と共有できる機会を作れば良かった。 ②観点別評価が全学年対象となった中、各教科での研究は進んできたがまだ課題は多い。学校全体で共有して検討する必要がある。 ③「多様な学習ニーズに対応した柔軟で質の高い学び」の制度について研究と職員への周知を行い、実施方法を決定することができた。
B	・実験実習を通し知識・技能を深め、3科の課題研究発表会では内容のある発表を行い、保護者や地域の中学生に学びの発信を行うことが出来た。 ・小学校交流はコロナ前と同じ内容での交流は出来ないことも見られたが、工夫を行いながら様々な形態での交流を行い、生徒の学習を深め、コミュニケーション能力を養うことが出来た。
A	・生産・加工・販売と意欲的に実習に取り組むことできた。特に実習では、意欲的に取り組む事が出来、成果を上げた。課題研究においてもそれぞれのテーマで取り組み探究的な学習ができた。小学校交流では、2小学校3クラスとダイズ栽培から豆腐作りまでの交流と1クラスで菱池での交流を行うことができた。
B	・信州学を活用し、花屋講師によるフラワーアレンジメント講座や軽井沢のホテルでのガーデン装飾の研究など外部との連携を新規開拓し、より実践的に専門性を深めることができた。 ・動物介在活動等のヒューマンサービス、動物との共存に対応できる知識と技術を活用した産業動物飼養管理や地域の小学校とウサギ・ヤギ・ニワトリの小動物を介した交流活動ができた。
B	・地域と協働して地域食材や佐総生産物・加工品を利用した新たな商品開発を行い、6次産業化やマーケティングの実践を通じて学ぶことができた。開発した商品は地域イベントや農産物販売会で販売し、メディア等での発信を通して佐総の学習活動をアピールすることができた。 ・地元小学校と水田の生き物調査、ポップコーン等を使った交流を行った。戸塚酒造との酒米栽培交流など資源を活用した地域連携ができた。
B	昨年より受入企業が若干増え職種の幅が広がった。地元46社の支援を受けてインターンシップを実施し、地元企業・ものづくり産業への理解、職業観・勤労観を深めることができた。事後学習として企業を迎え、報告会、懇談会を実施し、概ね生徒の取り組みや礼儀などに対して評価をいただいた。生徒個々に、体験や報告会を通してキャリアアップが図れた。
B	・実習内容の研究と検討を重ね、よりわかりやすい授業に努めることで生徒の理解度を高めるとともに知識の定着がはかれた。 ・技能検定は高校生ものづくりコンテストと関連しているので課題研究も含めて、今年度も職能協会の支援を受けた外部講師「ものづくりマイスター」の指導により技能向上が図れた。また、今年も難関の旋盤2級を取得した生徒がいた。
B	座学の内容を実習で実践し、理解を深める系統的な学習ができた。資格取得、ものづくりコンテストなど複数の大会にチャレンジすることで専門科目の授業の興味関心につながられた。課題研究では多くの生徒が意欲的に研究に取り組めた。
B	・「探究さくたいら」は開講2年目となり、1学期「佐久を知る」、2学期「佐久で学ぶ」、3学期「佐久を創る・生きる」の単元構成が定着し、段階を追って農工協働で探究する形ができた。

	創造実践科	創造実践科全体	自己を理解し、様々な学習を通し自己充実感、コミュニケーション能力向上を図る。	・授業への取組。 ・自主性やコミュニケーション能力を向上することができたか。
		生物環境系列	体験的学習を通して自己充実感、他者とのコミュニケーション能力の向上を図る。	・授業への取組。 ・地域との交流ができたか。
	創造実践科	デザイン系列	デッサンを中心に教科の関連性を理解し実践する。	・授業への取組。 ・発表会への準備、成果。
		文理医療系列	基礎学力を身につけ進路実現を目指す。	・授業への取組。 ・自己目標に向けて取り組めたか。
進路指導	進 学 指 導		進学希望実現のための支援	進学実現のために個々の課題を解決する支援することができたか。 ・補習授業の実施や小論文・面接指導等の支援をすることができたか。
	就 職 指 導		就職希望実現のための支援	・希望する就職実現のための支援をすることができたか。 ・企業や職安との連携を深め、情報提供する支援をすることができたか。
	キャリア教育		職業理解を深めるための支援	・職業理解を深め目的意識を持って学習活動に取り組む支援ができたか。 ・地域社会を支える人材として自己実現を図る支援ができたか。
生徒指導			①基本的生活習慣の確立 ②学習活動に集中できる学校環境の整備 ③地域から信頼・期待される生徒の育成 ④他の分掌との連携	・すすんで「挨拶」を行うこと、時間・提出物など守ることができたかができたか。 ・いじめや暴力を許さない雰囲気づくりができたか。 ・規範意識を持ちルールとマナーを守らせる指導ができたか。 ・厚生係、いじめ対策委員会等と連携できた
生徒会			①より良い学校づくり ②地域連携 ③両キャンパス間連携	生徒会活動を通して ①より良い学校づくりができたか。 ②地域との交流ができたか。 ③両キャンパスの交流ができたか。
厚生	保健		感染症対策や保健行事の計画・実施と丁寧な健康相談を行い、必要時は校内や専門機関との連携を行う。	感染症対策や保健行事の運営、健康相談、必要時の連携ができたか。
	特別支援教育		アンテナを高くすることで生徒状況をいち早く把握し、各学年、養護教諭、生徒指導と相互に連携し合いながら支援の体制を整えていく。	得られた情報を全職員で共有できたか。連携を取りながら支援体制を整えられたか。
	教育相談		不適応や問題行動への対応とともに、日常的な相談や生徒理解を重視する。	アンケート、聞き取りを通じて不適応などの早期発見に努めることが出来たか。いじめもしくはそれと思われる事象について迅速な対応ができたか。
	人権平和教育		学校、学年、各教科で人権・平和問題に取り組む。1年はSNSの扱い方。2年は修学旅行を通して、3年は進路選択のなかで、学ぶ。	多様性が重視されるなかでお互いを尊重できるようになったか。それに向けて取り組めたか。

3 学校運営

対象	担当部署	評価項目	評価の観点
学校運営		両キャンパスにまたがる様々な諸課題について検討し、両キャンパスの連携を推進する。	各キャンパスから出された課題に対し、適切に対応できたか。
清掃美化		日常の清掃美化活動を通じて、自らの学校生活を快適で充実したものにするため、校内の学習環境を整える。	活動を通じて、基本的生活習慣の形成・勤労の意義や奉仕の精神の育成、集団の一員としての自覚を深め、責任感を育成することができたか。
教務	公開授業	授業公開（年2回）などの機会を生かし、佐総高校の魅力を発信する。	中学生だけでなく、地域に本校の存在意義が認識されたか。
	情報管理	①円滑に校務がはかれるように、セキュリティを確保しつつ、ICT機器の有効な活用を図る。 ②学校Webページからの情報発信を充実させる。	①グループウェアを活用して、校務の効率化が図れたか。また、利用率が向上したか。 ②学校行事などを掲載することにより、本校の魅力を伝えられたか。
渉外	PTA	生徒の学習活動が円滑に行われるよう、各学科、各キャンパス間の保護者、職員の風通しを良くし、行事等を協力して行う。	役員を、学科、キャンパス間でバランス良く選出できたか。PTA行事で十分な交流ができたか。
	同窓会	正副会長・理事・監事の新体制での運営および体制づくり。	10周年に向け同窓会組織づくりや記念事業の準備ができたか。生徒・職員の教育活動への援助ができたか。
危機管理	非違行為防止	教職員の非行防止に向けた取り組みを実施する。	非違行為防止に関する研修などを充実させることができたか。
	個人情報保護	様々な場面で個人情報が適切に管理するために研修を行う。	個人情報を適切に扱うことができたか。

B	・特に「産業社会と人間」、「キャリアミドル」、「キャリアチャレンジ」において、自己理解とコミュニケーション能力の向上が図られた。 ・特に探究活動においては他者と協働する機会を設けることで、コミュニケーション能力の醸成を図ることができたが、自主的に取り組む態度の向上には支援の方法を検討する必要がある。
B	・造園連佐久分会、キノハナkinano、信州大学繊維学部、地元の竹細工職人の方など多くの方に協力いただき、生徒が学校外の方と交流を通して学びを深めることができた。 ・臼田Cの農業科目の在り方や開講科目等は今後も検討が必要だと感じている。
B	・今年度も川村吾蔵記念館での展示を予定しており、授業での取り組みを多くの方に知ってもらい機会を設けることができた。また発表会においても生徒の探究活動が伝わるよう支援することができた。 ・教育課程の見直しも含め、科目間の連携は充実させる必要がある。
B	・細かな講座選択を実現し、生徒が自ら選んだ科目に取り組むことによって学習意欲を高め、それぞれの目標に向けた意欲的な学習をすることができた。
B	全職員で面接指導等にあたった。希望者には放課後補習や模試を行った。
B	求人票管理システム「Handy進路指導室」を新たに導入し、生徒保護者への情報提供の支援を進められた。職員や支援員による就職希望者の面談、企業と連携しての応募前見学などを実施できた。
B	インターンシップ、進路ガイダンス等を活用して職業理解を進めた。
③④ A ①② C	地域への活動に関しては、外部からも高い評価を得ている。他の委員会との連携も円滑に進めることができた。 一方で、問題行動の数や一部の生徒の実態から鑑みれば、今年度厳しい評価となった。職員は例年以上に生徒に働きかけてきたが、従来の対応では難しくなってきた。今後、職員の共通認識を構築し生徒や保護者への対応を考えていく必要がある。
B	能登半島支援募金や赤十字海外募金など、生徒が積極的に取り組むことができた。 駅前でのあいさつ活動や選挙の啓発活動など、地域と協力した活動ができた。 文化祭では、昨年度より一般公開の制限を緩和することで、多くの来場につながることができた。 来年度の文化祭テーマについて、両キャンパスの役員で協力して原案を考え、両キャンパスでの投票で決定することができた。
B	学校保健計画、保健行事計画にそって保健管理・指導、保健講話が実施できた。令和5年5月8日、新型コロナウイルス感染症法第5類移行に伴う各種対応や、対応マニュアルの改訂、各種行事の感染予防対策も含め感染拡大防止に力を注ぐことができた。必要時、迅速かつ緊密な校内・校外連携をはかることができた。
B	生徒情報ファイルを作成し閲覧可能にすることで、得られた情報を全職員で共有できた。支援が必要な生徒に関して、外部の支援機関と連携することができた。支援が必要な生徒の対応方法、支援方法について職員へ情報提供に努めた。
B	4月の新入生オリエンテーションでSOSの出し方教育を実施。6月・11月の学校生活アンケート、聞き取りなど通じて不適応などの早期発見に努め、校内で連携して対応できた。カウンセリングの重点派遣を申請し、年96時間(浅間)、80時間(臼田)のカウンセリングを実施した。いじめと思われる事例にはいじめ対策委員会を開催し、速やかに対処した。
B	1年では、4月にスマホ・ネット教室を行い、自分で情報を適切に判断し、活用する力を身につけることを学び、10月に薬物乱用防止教室、性教育講話を聴き学習をした。2年では、突然の事故に遭遇した際の迅速な対応ができるように、AED講習会に参加した。3年では、ライフデザイン教育で思春期に必要な健康管理と、将来の人生設計について学んだ。